「先端農業技術科学専攻」の新設

筑波大学と独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構は、共に協力して、先端農業技術科学分野における高度の専門性を有する人材の育成をより協力に推進するため、筑波大学大学院生命環境科学研究科（博士課程）に、農業・生物系特定産業技術研究機構を基盤とする後期３年の博士課程である「先端農業技術科学専攻」を、平成１７年４月に設置することとなり、このたび、「連係協力に関する協定」を締結することとなった。

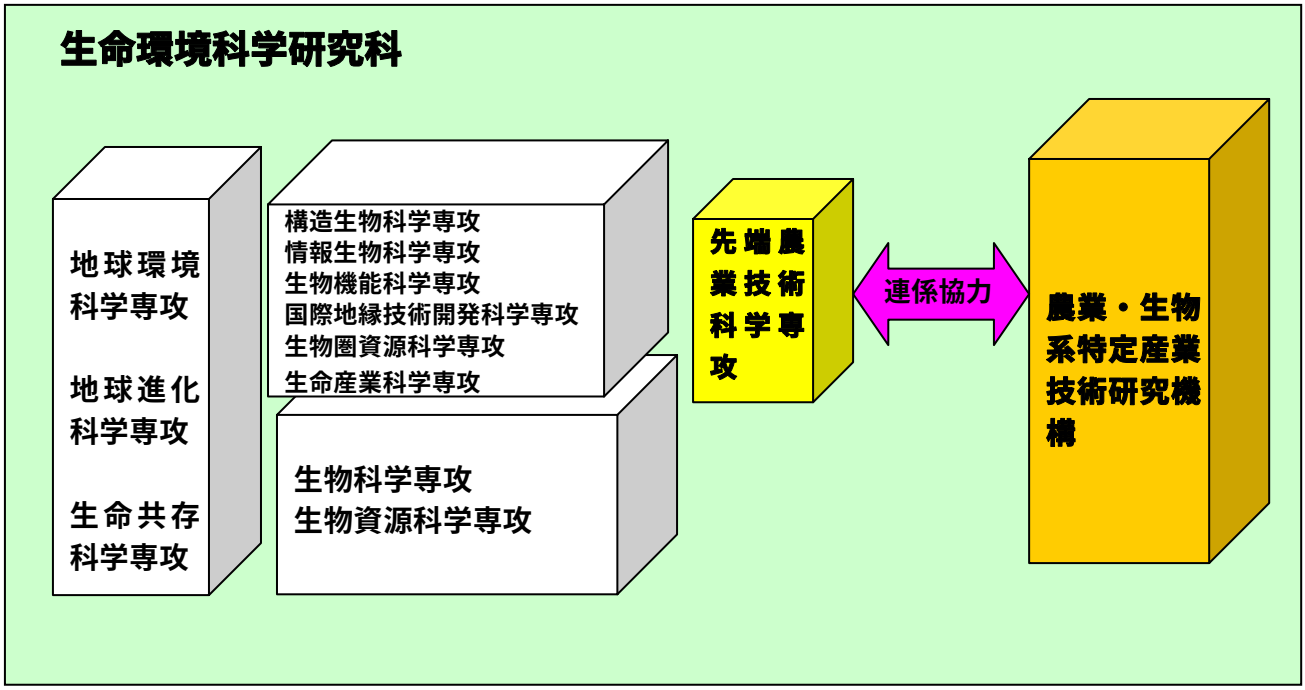
この「先端農業技術科学専攻」は、農業・生物系特定産業技術研究機構の研究者１８名を本学の客員教授等に迎え、この１８名の教員で組織される専攻であり、研究指導は、農業・生物系特定産業技術研究機構の優れた研究環境を活用して行なうものです。

研究機関の研究者で組織する専攻を設置して、その研究機関の優れた研究環境を活用して教育を行なう専攻レベルの連携大学院方式としては、平成１６年度設置の数理物質科学研究科「物質・材料工学専攻」につづき、二つめを実施する運びとなった。

○先端農業技術科学専攻の概要説明

現在日本の農業は、食料の安定供給、食の安全性、環境負荷の低減等を実現し、かつ農業生産力の向上と農業体質を強化することが求められており、研究現場ではこれに資する農業生産技術の開発を総合的・効果的に進めることが強く期待されています。このためには、先端農業技術を考究し、十分に現場で応用できる人材の養成が必要です。

本専攻は、博士後期の独立専攻であり、筑波研究学園都市に位置する独立行政法人「農業・生物系特定産業技術研究機構」に在籍する研究者が連係大学院教員として運営に当たり、先端農業技術科学、とくに新機能や環境調和型農業に適合する作物、果樹、花きの新遺伝資源の作出と利用、農業科学と情報科学を融合するフィールドインフォマティクス、生産・管理システム、家畜生産機能制御の各研究分野において、博士前期課程（修士課程）までに学んだことを当分野に活かして発展させようとする学生を対象に研究指導を行い、前掲の人材を養成し社会に送り出すことを目的としています。



{担当：大学院部大学院課　／連絡先：内線　２２３３（根川）,２２３９（橋野）}